

まちのトピックス

8/29 共に住みよい地区を目指して～若洲地区外国人技能実習生交流事業～

若洲地区の4人に1人は外国人技能実習生

若洲地区の人口429人のうち、外国人技能実習生(実習生)は106人となっており、区の人口の約25%を占めています。

区では「言語や文化の違いを理解し、地域住民と実習生が共に暮らす地区」を目標に地区づくりをしており、今回は交流の一環として、実習生に生活の不安を解消してもらうために、交通ルールや防災の講習会が行われました。



▲6か国の技能実習生が参加

日本のルールを学ぶ講習会

○ 火災訓練

地元消防団による消火器を使った火災訓練の実演が行われ、火災発生時の初期消火の説明がありました。

○ 防災講習会

町の職員が防災マップを資料にして、災害時の避難場所や警報が発令されたときの情報収集方法などを説明しました。

○ 交通ルール・マナー講習会

八代警察署による交通ルール・マナー講習会では、実習生の主な交通手段である自転車に焦点をあて、乗車時や走行時の注意点、信号や道路標識の意味などの説明がありました。



▲地元消防団による火災訓練



▲自転車の交通ルール・マナー講習会(フィリピン出身のマイケルさん)

多文化共生を目指して

若洲地区では6か国(フィリピン、カンボジア、タイ、ベトナム、中国、インドネシア)の実習生が生活しています。講習会の合間には、お互いの国のことを理解し合うために、代表者が出身国の紹介をするコーナーもありました。

講習会に参加した実習生からは、「自転車の運転に注意していきたい。」といった声があがり、日本のルールをしっかりと理解されたようでした。

区長の石原信廣さんは、「同じ地区の住民として、共に住みよい地区にしていきたい。」と話されました。



▲実習生の出身国を紹介(ベトナム出身のグエンティニユンさん)

8/1 社会体育指導者研修会



▲社会体育指導者研修会の様子

文化センターで社会体育団体指導者の資質向上を目的として令和3年度社会体育指導者研修会が行われ、社会体育団体のコーチや学校関係者など37人が参加しました。

研修では、スポーツ活動時の暴力やセクハラなどの「スポーツハラスメント」に関する講話と、ニュースポーツ「モルック」の体験が行われました。講話では、実際に起きた事例の話もあり、指導のあり方について考えさせられる内容でした。「モルック」の体験では、スポーツ推進委員の指導のもと、5つのチームに分かれてゲームを行いました。モルックはシンプルなルールで、老若男女を問わず誰でも楽しめるニュースポーツです。



ニュースポーツ「モルック」

9/3 もち米ブランド化名称は「蓮華の花園」



▲受賞された辛川さん(左)。右は松本会長

氷川町もち米ブランド化推進協議会が、もち米の認知度向上と需要拡大を目的として、ブランド化するもち米の名称を募集したところ、33点の応募があり、その中から辛川亜耶さん(下鹿島)の「蓮華の花園」に決定しました。

辛川さんは「蓮華畑の後に栽培されるもち米をイメージし、漢字にすることで上品で美しく感じられる名称にしました。」と話されました。

8/23 小さなお地蔵さんたちがお出迎え



▲桜っ子クラブが作った小さなお地蔵さん

例年8月23日に開催されている地藏祭りですが、2年連続で中止となりました。

代わりに今年は、桜っ子クラブの子どもたちが陶芸クラブの指導のもと、小さなお地蔵さんを製作しました。きれいに並べられた100個のお地蔵さんは、しばらくの間宮原振興局に展示され、多くの人の癒しになりました。